



会員 結城 優

弁護士1年目を振り返る

1 はじめに

弁護修習のとき、指導担当弁護士が、「1年目にやった事件というのは20年経っても忘れないものだ」というようなことをおっしゃっていたのをよく覚えている。当時は「そんなもんかな」くらいにしか思っていなかったが、今は、今年担当した案件は一生忘れることはないだろうという確信めいた予感がしている。本稿では、その弁護士1年目の活動を振り返ってみたいと思う。

2 所属事務所での活動

私の所属している事務所は、労働事件を専門的に取り扱っているが、業界では珍しく労働者側・使用者側双方の相談・事件を受けている。私はもともと労働法分野には関心が高かったため、労働事件、しかも労働者側・使用者側の双方を経験できる今の環境にとっても感謝している。顧問先からの労働相談は毎日のように受けるし、労働審判や団体交渉も経験させていただいた。

また、労働以外の分野の事件についても少なからず取り扱っている。本稿執筆現在、弁護士登録から9ヶ月程度であるが、建物明渡や貸金返還から始まり、遺留分減殺、特定調停、交通事故、取消訴訟、組織再編、刑事事件等、幅広い分野の案件に取り組んでいる。

最近、事務所に修習生やエクスターン生が研修に来ており、彼らと話をしていると、自らの修習時代・ロースクール時代を思い出すことが多い。私もつい最近までロースクール生・修習生だったはずなのだが、なんだか遠い過去のような気がすることもあり、弁護士になったのだなあ実感する。

3 労働法制特別委員会の活動

私は、現在、労働法制特別委員会に所属している。

同委員会には複数の部会が存在し、私は判例研究部会に所属している。先日、その判例研究部会で、とある裁判例の発表担当を務めさせていただいた。第一線でご活躍されている弁護士の方々と、判決文の内容や今後の労働法制のあり方に至るまでを議論をすることができ、大変刺激的な時間であった。実は、同裁判例の紹介・解説についても、今月号のLIBRAに掲載されているはずなので、「近時の労働判例」もご覧いただければ幸いである（宣伝）。

4 休日の活動

平日が仕事で忙しいと、週末はつつい家でのんびりとしたくなるのだが、最近はなるべく外に出るようにしている。修習時代から始めたゴルフは、最近は毎週末に明治神宮外苑のゴルフ練習場へ打ちっ放しに通っているものの、なかなか上達の兆しが見えていない。やはりレッスンに通うべきだろうかというのが最近の悩みである。

ゴルフ以外では、最近は「SUITS/スーツ」という海外ドラマに夢中である。「SUITS/スーツ」の舞台はアメリカの大手法律事務所、敏腕パートナー弁護士のハーヴィとその直属アシエイトであるマイクが様々な事件に挑んでゆくというものである。これを読んで初めて知ったという方、ちょっと気になっていたという方、是非これを機にチェックしてみてほしい。

5 むすびに

クラス別研修の担任から話を受けて、気軽に執筆に手を挙げたりリレーエッセイであったが、書き出してみると、意外に何を書こうかと悩むもので、思案しているうちに原稿〆切日となってしまった。準備書面はもう少し余裕をもって取り掛かるようにしたい。